



(参考仮訳)

プレスリリース No. 10/261
即時解禁
2010年6月27日

国際通貨基金
米国・ワシントン D.C.

**ドミニク・ストロスカーン IMF 専務理事、
持続的且つ力強い世界経済の回復の確保に向けた G20 の措置を歓迎**

国際通貨基金 (IMF) のドミニク・ストロスカーン専務理事は本日、カナダ・トロントにおいて 20 カ国グループ (G20) が合意した、世界経済の回復の維持、並びに強固且つ均衡した持続的成長のための基盤の確立に向けた措置を歓迎した。

同専務理事は、経済成長及び雇用創出の促進、並びに世界の一層の繁栄に向け、多国間で連携するとして各国首脳の決意について特に言及し、「この度サミットでは、G20 の強固で持続可能かつ均衡ある成長のための枠組みの進展に向け各国首脳が積極的に参加するなど、その結果を心強く思う」と述べた。

G20 各国首脳は、トロントにおいて包括的な行動計画の策定作業に取り掛かり、その最終案についてソウル・サミットで合意すると決定した。ストロスカーン専務理事は、「これは今後に大きな期待を抱かせるものである。[G20 の相互評価プロセス](#)をサポートする IMF の分析によると、適切な協調行動を採ることで、中期的に世界の GDP を 2.5% 押し上げるとともに、新たに数千万の雇用を創出し、数千万の人々を貧困から救済する可能性がある」と述べた。

また同専務理事は、失業率を改善し巨額な公的債務を削減するには、より強固な成長が不可欠だと述べた。「G20 の相互評価プロセスは、成長に向けた課題の解決が期待されるメカニズムであり、以下 3 分野において行動が必要だとしている。第一に、先進国の財政再建が不可欠である。これは、回復が依然として脆弱であることから、現実的な財政計画を、大半の国では 2011 年の開始を目標とするなど、早急に実施することを意味する。第二に、経常黒字国は、ソーシャル・セーフティ・ネットへの支出や、インフラの改善、更には為替相場の柔軟性の向上などを図り、内需を拡大する必要がある。第三に、特に先進国において、構造改革すなわち成長を押し上げる製品・労働市場の改革、及びその結果好転した経済を持続させるための金融

部門の改革が不可欠である。

ストロスカーン専務理事は、トロント・サミットでは、金融部門の安定化と強化に向けた新たな包括的基準の構築において、多くの前進が見られたと述べた。「ロンドン及びピッツバーグで合意された金融部門の改革の実施に向け、G20 各国首脳が改めてコミットメントを表明したことに勇気付けられた。より健全且つ安全な金融部門は、回復に必要な資金を融資し、実体経済のニーズに応えるものとなるだろう。また、各国首脳による金融システムの再建或いは破たん処理への金融支援など、政府介入に伴うあらゆる負担の分担において、金融部門が公平且つ大規模な貢献を行なうための施策の策定の基準となる原則に合意したことについても心強く思う。」

最後に専務理事は、ピッツバーグ・サミットのコミットメントに沿い、IMF のクォータ（出資割当額）の改革を、他のガバナンス改革と平行しながら、11月のソウル・サミットまでに完了させるために作業を加速化させるとしたコミットメントをはじめ、IMF への G20 の支援を歓迎した。ストロスカーン専務理事は、「本日のコミットメントは、IMF の正当性と信頼性を向上させるものだ。ソウル・サミットまで依然として多くの課題が残っている。2008年のクォータ並びにボイス（投票権）の改革への合意の批准に対するコミットメントは実現されねばならず、新規借入取極（NAB）の改革は完了されなければならない。さらに、新たな一連の改革を実施するうえで困難な作業が待ち受けている。しかし私は、IMF 加盟国は果敢に課題に立ち向かうと確信している」と強調した。

参考資料

相互評価プロセス報告書:

<http://www.imf.org/external/np/g20/pdf/062710a.pdf>

金融部門への課税に関する報告:

<http://www.imf.org/external/np/g20/pdf/062710b.pdf>

IMF の財源:

<http://www.imf.org/external/np/exr/facts/finfac.htm>